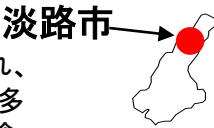
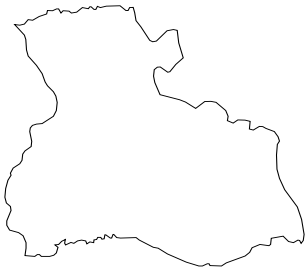


1. 地域農業の状況

○ 淡路市は淡路島の北部から中部に位置し、東に大阪湾、西に播磨灘を臨む。また、本州と四国を結ぶ大動脈である神戸淡路鳴門自動車道が南北を貫通するほか、東西及び海岸沿いに県道が通り各集落を結ぶ。



○ 温暖な気候のもと自然条件に恵まれ、水稲 野菜・果樹・花卉及び肉用牛等多彩な農業生産が営まれ、京阪神への食料供給基地として大きな役割を果たしている。特に畜産については、本市農業総生産額の40%を占めており、1次産業の中で非常に大きなウエイトを占めている。

○ 市の北部に位置する野島地区は、農地開発事業により農地整備され当初果樹を中心とした営農が計画されていたが、農業情勢変化から飼料作物の作付けが中心となるほか、傾斜地の農地利用低下が著しく耕作放棄地の解消が課題である。

取組実績	R2年度	R3年度
放牧面積	7ha	7ha
放牧頭数	4頭	22頭
放牧期間	53日	90日

2. 地区概要

取組主体	太陽通関株式会社	地区名	野島地区
再生面積	7.0ha	取組年次	令和2年度、3年度
作付作物	牧草（バビアグラス）	販路	家畜市場に出荷

3. 取組内容及び効果

放牧事業を活用した、新規参入と荒廃農地の解消

- 太陽通関株式会社は和牛繁殖農家で研修の後、令和2年に放牧事業を活用して和牛繁殖経営に参入。農地中間管理機構を通じて荒廃農地約7haを借受。
- 令和2年度は雑木が繁茂する土地を伐採整備、令和3年度は淡路島の温暖な気候を生かして7haの傾斜地にバビアグラスを播種し草地化を図り、但馬牛の繁殖雌牛22頭を放牧。今後、放牧頭数の増加を図るとともに、地域の放牧推進に努める。



伐採・整備前（R元）



放牧後（R3）

活用した支援策

R2・3畜産生産力・生産体制強化対策事業のうち肉用牛・酪農基盤強化対策（放牧活用型）（国）